

バラ栽培の技術指導（特定分野における交流／農業等）

<http://www.city.tahara.aichi.jp/international-ex/ex-btw-laos.htm>

交流団体名

日本側		相手側		
自治体名	交流団体名	国・地域名	自治体名	交流団体名
愛知県	田原市	ラオス	ヴィエンチャン特 別市サイタニー郡	

交流の概要

田原市とラオスの交流のきっかけは、2005年に愛知県で開催された「愛・地球博」、愛知万博の参加各国と県内の市町村が交流を深める「一市町村一国フレンドシップ事業」であり、田原市の相手国がラオスだったことが縁で、交流が始まった。

フレンドシップ相手国としての交流を進めるなかで、ラオスのサイタニー郡から、農業生産額日本一・「バラの産出額日本一」の田原市と農業・教育分野における交流をしたいとの要請を受け、「JICA草の根技術協力事業」を通じ、バラの栽培技術を指導することになった。

平成19年度と20年度は、サイタニー郡から農業事務所職員を2名ずつ約4か月間にわたり研修生として受け入れ、田原市内の農家の協力を得て、バラの栽培技術や畑の土づくりの研修を行った。平成20年度からは、田原市から農業専門家をサイタニー郡に短期派遣し、現地でのバラの定植、バラの栽培管理指導を行っている。さらに、サイタニー郡から送られてくる栽培レポートへの返信・指導も行っている。

また、平成21年度には、たはら国際交流協会が主催する市民海外派遣で、市民23人がサイタニー郡のバラ栽培試験場や田原市が建設を支援したサイタニー郡教育事務所を訪問するなど、田原市とラオスの交流は広がりを見せている。



【ラオスでバラを栽培】



【田原市でバラ栽培を実務研修】

今後の展望・課題

ラオス国内ではあまり生産されていない「バラ」は、ホテルでの使用のほか、新年や卒業式のシーズンには需要が高まる魅力的なものである。主に稲作に依存する農家の収入安定をめざし、バラを経営作物として定着させることを期待してバラ栽培を始めた。

ラオス・サイタニー郡の自然環境は、バラ栽培において必ずしも最適な環境ではない

ももの、田原市で学んだことを活かして一步一步着実にバラ栽培に取り組んでいる。
「ラオスにバラを咲かせよう」田原市で学んだ技術で、花いっぱいのラオス・サイタニ
一郡になってほしいものです。

優れた特色

愛・地球博から始まった交流を一過性のものとせず、田原市において盛んなバラの栽培
技術を伝えることによって、相手方農家の人材育成や収入安定に貢献している。